令和６年度　事業報告書

自：令和６年 ４月　１日

至：令和７年 ３月 31 日

社会福祉法人いこま福祉会

Ⅰ．法人本部

１．法人本部

（１）人材獲得・定着・育成、外国人受け入れ

・新卒採用については、グループホームアルバイトから 1 名、マイナビからの応募から１名採用することができた。令和６年度は 11 名のインターンを受け入れることができた。農福連携コースが 5 名、支援員コースが 6 名となっている。その中から３名の新卒採用の応募に繋げることができた。

・外国人特定技能生は、4 月にミャンマー人女性 3 名、11 月にミャンマー人男性２名､12 月にインドネシア人男性２名を受け入れ､特定技能生は男性７名、女性 3 名となった。また、吐山学園の留学生の受け入れで令和 5 年度から男性１名、女性２名の受け入れを行っていたが、うち２名が採用見送りや異なる業種に移行するため離職。現在 1 名の女性留学生が継続してアルバイトに従事しており、介護学校を卒業後、入職する予定となっている。令和６年４月からは外国人の担当者を選任し、受け入れ時の対応や日本語の学習などに力を入れており、日本語検定を受験した者はそれぞれ合格することができた。

（２）虐待防止及び身体拘束適正化に対する取り組み

・毎月各事業所の管理者が集まり、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を実施した。全体の事業の中で虐待と疑われるような事例や身体拘束につながるような案件を出し合い話し合った。

・実際に虐待通報として挙がった案件については臨時で虐待防止委員会を開催し、対応や対策について協議を行った。

・令和６年 12 月 27 日に法人内研修で意思決定をテーマに研修会を開催した。職員全員がメンバーの立場にたって意思決定について考える機会となり、貴重な意見を交わし合うことができた。

（３）ICT 活用整備促進

・障害分野のロボット等導入支援事業補助金について、令和 6 年度も申請した結果、グループホームのネットワーク環境の整備と眠り SCAN の導入について補助金を受けることができ、女性グループホーム 3 軒のネットワーク環境の整備と、眠り SCAN の導入を行った。

・職員の労務管理について､情報の共有化･効率化･働き方改革などの観点から、新たに労務管理ソフト「SmartHR」を導入した。利用範囲を段階的に拡大しながら進めていく。

（4）事業推進

①暮らし

・暮らしプロジェクトを中心に小瀬グループホームの開所に向けた検討、設計会社との打ち合わせを行った。他法人の取り組みも参考にするために施設見学等も行い、新規グループホームの設立に向けて具体的な構想を考える機会を持つことができた。

②地域公益

a. いこいこまつり

・新たに海外交流をテーマに加えた第 10 回いこいこまつりを企画してきたが、当日警報級の大雨予報のため中止することとなった。3 日前の中止判断だったため、中止に伴う大きな混乱はなかったが、雨天時のスケジュールなどの課題は実行委員会で話し合うこととなった。

b.街づくりプロジェクト

〇やまびこネットワーク

・5 月 11 日、10 月 26 日にやまびこネットワーク、近畿大学農学部と連携して地域の子どもたちとさつまいもの苗植え体験、芋掘りを実施した。2 月 2 日には冬の子どもフェスタで温かい飲み物と焚火を提供した。

〇竹のワークショップ

・5 月 3 日、11 月 23 日に竹のワークショップを開催した。幼竹の採取や皮むき体験、竹工作、竹飯盒・カレーや肉まん・ラーメンなどの食事を提供し、昨年度に引き続き好評のイベントとなった。

〇不登校、引きこもりへの取り組み

・不登校児や引きこもりで悩む方々への取り組みとしては具体的なイベント等の開催には至らなかったが、そうした子どもたちの支援に取り組んでいる放課後等デイサービス事業所に幼竹採取、メンマの 1 次加工体験の機会を提供することができた。

（5）自律支援部

・体調不良が見られたり、病気や障害の重度化により介護度があがったり、身体のしんどさが顕著に出てくるメンバーが多かった。自分で気持ちを表現しにくいメンバーも多い中、ご本人の意思表出の手段の発掘や、汲み取り側（職員）の気づき力の強化等、課題が残る。

・発達検査やその結果のフィードバックの機会を設け、専門家からの具体的なアドバイスを受けながら、実際の支援に活かしていくための振り返り作業を積み重ねることができた。しかし、ご本人支援を介して部署や立場の違う職員同

士が活発な意見交換をするレベルまでは、至らなかった。

（６）法人事務局職員体制

【法人本部】

・事務長１名

・事務員 正規１名、嘱託２名（内１名兼務）

【施設管理】

・各所属長（兼務）

【運行管理】

・嘱託１名（兼務）

【衛生・栄養】

・管理栄養士　正規１名

・看護師　正規１名　サポート２名

（７）情報発信

・かざぐるま通信を７月と１月に発刊した。

・いこまふくしかいだより(日中活動部門)を７月、11 月、３月に発刊した。

・機関紙かぜいろだより(生活支援センター)を５月、１月に発刊した。

・ホームだより～ほっこり time～(生活部門)を６月に発刊した。

・ホームページによる情報発信を行い、随時休日開所やイベント行事などの様子を発信した。喫茶ゆうほ～、ひよりカフェではインスタグラムも活用して発信した。

第三者委員会　報告（令和６年度）

・令和６年度中に第三者委員会で審議された案件は０件だった。

（８）リスク対応

・毎月各事業所の会議の中でリスクマネジメントについて話し合い、事故報告やヒヤリハットの振り返り、検証を行った。毎月の施設長会議でも各事業所からの報告を確認し、法人全体での情報共有に努めた。

・各事業所で避難訓練を実施。令和６年度は消防署の立ち合いのもとで避難訓練も行い、具体的な避難誘導の助言、指導を受ける機会を持った。

・３月に救命救急講習を実施し、心肺蘇生、AED の使い方についての実技講習を行った。

・嘔吐物処理についての正しい処理方法の周知を行い、感染性胃腸炎の感染拡大の防止に努めた。

・食品衛生に関わる事業所では、異物混入についての対応の見直し、他法人の見学研修、メンバーも含めた衛生研修も行い、異物混入事故の再発防止に努めた。

【職員有給休暇消化率】（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）
※常勤　42 名、嘱託　14 名、サポート　57 名、アルバイト　52 名
　特定技能実習生　10 名

部課	消化率（%）
全職員	65.3%
日中関係部署	70.2%
ホーム関係部署	56.5%

Ⅱ.日中活動部門

Ⅱ.日中活動部門

《総括》

令和 6 年 4 月より新たに生活介護工房結を事業申請し、工房結を多機能型として 30 名定員でスタートすることとなった。また、報酬改定に伴い重度障害者支援加算の算定など新たな報酬体系にも対応し事業運営に努めた。

活動では、地域のイベントや出店も活性化した 1 年となり、様々な地域の行事に参加したり、新たに事業所としてのイベント行事も開催するなど広がりをもつことができた。発達検査の導入やメンバーが発言したり表現する機会を増やすことにも取り組み、新たな一面の発見や変化を感じることにも繋げることができた。

農業プロジェクト

・加工トマトは昨年の病気による不作に対策を講じ、今年は総重量約 1,300ｋｇ収穫することができた。しかし、猛暑と雨不足による影響で人参の発芽率が低下したことやカメムシの大量発生に見舞われ規格外の野菜が増えるなど、野菜の育成を阻害する要因が発生したこともあり、その都度可能な限りの対策を講じた。

・新たに地域の竹林所有者の紹介なども受け、幼竹の収穫量の増加やメンマの製造量を増やすことができた。枯れ竹の運搬、竹チップ加工等にも取り組み、竹チップを堆肥に混ぜて農業への活用に繋がるように検証を行った。

働くプロジェクト

・令和 6 年 4 月から新たな工賃規定を施行し、メンバーの作業活動を実施してきた。年度末には振り返りを行い、メンバーの作業活動に対する評価の在り方や新たな工賃向上の仕組みづくりに向けての課題を話し合った。様々な意見もある中で即時導入できるような仕組みづくりには至らなかったが、今後継続的な課題として、日中活動部門の所属長間で仕組みについての議論を進めて行くことを確認した。

１．かざぐるま・かざぐるまえーる（生活介護）

（１）総括

新しいメンバーも加わり環境の変化もあったが、意欲的に活動に参加し、落ち着いて過ごしてもらえるように各班で工夫しながら対応した。また、メンバーが献立や食にまつわるトピックスを館内放送でお話してもらうなどメンバーが主体となって発信する機会を増やすことにも取り組むことができた。高齢化や身体機能の低下、病気等の発覚等メンバーの変化がみられる事案も起こってきた

が、専門の先生にリハビリプログラムや介助方法の指導や助言を受け、機能を維持しながら安全に日々を過ごせるように活動内容の見直しにも取り組んだ。

（２）職員体制

【かざぐるま】

・管理者　　１名

・サービス管理責任者　１名

・支援員　　正規３名　　嘱託１名　　サポート９名

【かざぐるまえーる】

・管理者　　１名（サービス管理責任者兼務）

・支援員　　正規７名（内、兼務２名）　嘱託１名　　サポート９名

（３）利用者の状況

【かざぐるま】（令和７年３月 31 日現在）

① 年齢構成

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	計	平均
男	0	2	7	7	4	0	0	20	40.9
女	0	4	8	3	3	0	0	18	36.7
計	0	6	15	10	7	0	0	38	38.9

② 障がいの程度　区分認定

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	0	8	8	4
女	0	0	0	0	7	6	5
合計	0	0	0	0	15	14	9

③ 稼働率（端数切り捨て）

かざぐるま【定員数 40 名　契約者数 38 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
４月	21	38	87%	10 月	22	38	88%
５月	21	38	89%	11 月	20	38	86%
６月	20	38	90%	12 月	20	38	88%
７月	22	38	88%	１月	19	38	88%
８月	19	38	87%	２月	18	38	85%

9 月	19	38	89%	3 月	20	38	90%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っていることと、体調不良等の理由により年間を通して通所できなかったメンバーもいたため、稼働率は全体的に 100%を下回る結果となった。

【かざぐるまえーる】（令和 7 年 3 月 31 日現在）

① 年齢構成

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	計	平均
男	0	4	7	2	2	2	1	18	42.1
女	1	0	3	3	1	0	0	8	39.8
計	1	4	10	5	3	2	1	26	41.4

② 障がいの程度　区分認定

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	0	0	3	15
女	0	0	0	0	0	0	8
合計	0	0	0	0	0	3	23

③ 稼働率

かざぐるまえーる【定員数 20 名　契約者数 26 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	26	117%	10 月	22	26	113%
5 月	21	26	123%	11 月	20	26	118%
6 月	20	26	120%	12 月	20	26	116%
7 月	22	26	121%	1 月	19	26	120%
8 月	19	26	120%	2 月	18	26	114%
9 月	19	26	125%	3 月	20	26	123%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が上回っており、毎月平均して定員数以上のメンバーが通所されていたため、全体的に 100%を超える稼働率となった。体調を崩して休まれる方もいたが、全体的に概ね安定して通所していただくことができた。

（4）事業及び経営の重点方針

①メンバーのアセスメントを強化し、それぞれの理解や特性に合わせた支援か

ら本人の意思や表現を汲み取れるようにする。

・令和６年６月から１ヶ月に１回、臨床心理士の方に来ていただき、定期的にメンバーの発達検査を実施した。各領域で様々な評価を知ることができ、関係者間で共有してメンバーの理解や捉え方に合わせた日々の支援の見直しに着手することができた。ただし、まだ部分的な取り組みでもあり、うまく思いを汲み取れずにパニックや不安定な行動に繋がる場面も活動の中では起こっている。本人の訴えや気持ちを汲み取る支援には気づきや更に考察を深めていく必要性があり、引き続き取り組んでいく。

②メンバーが誇りや自信をもって活動できるようにする。

・不定期ではあるが、メンバーが館内放送で当日の給食と食に関するエピソードを発信する機会を設けた。普段静かなメンバーが大きな声で話すことができたり、上手く話ができた！と自信になったメンバーもいた。来客者に対して自発的に仕事の説明をしたり、講演会や地域交流の場でもメンバー自身がお話をするなど、発信する機会が増えたことで自信になったり、もっと表現したいという意欲に繋げることができた。

（５）職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

・ばくリハビリ訪問看護ステーションからのアドバイスや助言
・生駒市南地区地域の力ラウンドテーブル
・やまびこネットワーク会議
・生駒高校人権講演会
・壱分小学校放課後子ども教室の参加（紙漉き体験・さをり体験）
・生駒高校職場体験実習
・生駒中学校・大瀬中学校職場体験実習
・壱分小学校交流会（2年生、5年生）

【ボランティアとして活動くださった方々】

＜班別／月別延べ人数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別小計
いぶき	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
くらふと虹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なかま	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ひかり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かなで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑風	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月別小計	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	8

・出店/イベント状況

定期

福祉センター出店（月 1 回程度）
さつき台集会所出店（月 1 回）
萩の台住宅地自治会出店（5 月 6 月）
市内の郵便局出店（月 1 回）
たわわ食堂出店（月 1 回）
アントレ出店（年数回程度）
生駒市役所いこふく出張所出店（月 1～2 回）

不定期

5 月　竹の WS イベント、やまびこネットワークさつまいも苗植え体験
7 月　南田原夏祭り出店、差別をなくす市民集会出店
9 月　生駒高校文化祭出店、奈良西養護学校出店
10 月　SDG s くらしの文化祭、やまびこネットワークさつまいも掘り
　　地域共生サミット
11 月　いこいこまつり、電車 de マルシェ出店、健康フェスティバル出店
　　竹の WS イベント、農業祭
12 月　スポーツ文化のフェスティバル出店、ひだまり出店
1 月　ORIORI 展
2 月　やまびこネットワーク冬のこどもフェスタ
3 月　福祉センター祭出店、スポーツの日の出店

2. きこり（生活介護）

（1）総括

新たなメンバーが増えることによる環境整備の実施と共に今までおられたメンバーとの関係性をうまく築けられるよう個々の特性や心身の状況に合わせて活動の組み立てを行った。また、活動内容については仕事以外にも余暇活動の充実を図る取り組みを行い、メンバーの楽しまれている様子が見られるようになった。

（２）職員体制

・管理者　　１名(サービス管理責任者兼務)

・支援員　　正規１名　サポート３名

（３）利用者の状況

【きこり】（令和７年３月 31 日現在）

① 年齢構成

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	計	平均
男	0	5	2	1	3	0	0	11	37.5
女	0	0	1	2	0	1	0	4	45.5
計	0	5	3	3	3	1	0	15	39.7

② 障がいの程度　区分認定

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	0	0	4	7
女	0	0	0	0	1	3	0
合計	0	0	0	0	1	7	7

③ 稼働率

きこり【定員数 20 名　契約者数 15 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
４月	21	15	62.1%	10 月	22	15	67.0%
５月	21	15	64.7%	11 月	20	15	62.7%
６月	20	15	65.7%	12 月	20	15	65.0%
７月	22	15	65.2%	１月	19	15	64.4%
８月	19	15	65.5%	２月	18	15	57.6%
９月	19	15	66.5%	３月	20	15	65.0%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っていることや、元々週に数回しか通所されないメンバーが３名いるため、稼働率が 60%台となっている。また、11 月の 62%は体調不良で欠席者が出たことや２月の 57%はコロナ感染による欠席で稼働率も低くなった。

（４）重点方針及び事業内容　取組結果

① メンバーの心身の状況や特性に応じたきめ細やかな支援の提供

・令和６年度より新しいメンバー2 名が異動してこられ、それぞれの特性に応じて環境面に手を加え、部屋の改築などを行った。活動の見通しがつくまでは必要に応じて個別対応を行うことで、見通しを持つことができ、落ち着ける環境を提供することができた。

② 活動内容の充実を図る

・令和 6 年度から余暇活動の機会を増やして実施することができた。施設内ではお菓子作りや収穫した野菜を使ったクッキングなども行い、メンバーに楽しんでいただくことができた。作業面では、健康維持に繋げるため、畑まで運動を兼ねて歩いたり、畑仕事では植え付けから収穫、販売とそれぞれ個々にあった役割を提供することができた。

（５）職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

・土砂災害警報が発令された際、別の場所で活動を実施した。定期的な避難訓練を実施してきたことでメンバーの環境の変化に対する動きを読み取ることができ誘導の手引きとなった。

・地域の方々より竹を引き取り、竹炭加工の作業に取り組んだ。

・自治会清掃へ参加し、近隣住民の方々と交流を通してきこり事業所を改めて知っていただく機会をもつことができた。

【ボランティアとして活動くださった方々】

＜班別／月別延べ人数＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	班別小計
きこり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

３．工房　結・喫茶ゆうほ～（就労継続支援事業Ｂ型・生活介護）

（１）総括

令和 6 年 4 月からあらたに生活介護工房結がスタートし、今までの就労継続支援 B 型として行ってきた生産活動に加えて、アートプログラムなどといった余暇活動にも取り組んだ。生活介護としての事業の確立にはまだ手探りな面もあるが、メンバーの定着は進めることができた。就労継続支援 B 型としての売上向上については前年度を上回ることは各事業とも達成できたが、継続的に売上が伸ばせるように新商品の開発、販路拡大に試行錯誤している。

（２）職員体制

・管理者　　１名

・サービス管理責任者　１名

【工房　結（就労継続支援Ｂ型）】

・支援員　　正規１名、サポート２名

【工房　結（生活介護）】

・支援員　　正規１名、サポート１名

【喫茶ゆうほ～】

・支援員　　嘱託２名、サポート６名

（３）利用者の状況

【工房　結・喫茶ゆうほ～】（令和７年３月 31 日現在）

① 年齢構成

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	計	平均
男	0	3	3	3	2	0	0	11	37.4
女	0	1	3	2	1	0	0	7	39.7
計	0	4	6	5	3	0	0	18	38.3

② 障がいの程度　区分認定

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	1	0	1	1	4	0	4
女	0	0	1	1	5	0	0
合計	1	0	2	2	9	0	4

③ 稼働率

工房結（就労継続支援Ｂ型）【定員数 10 名　契約者数４名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
４月	21	4	23%	10 月	22	4	24%
５月	21	4	22%	11 月	20	4	24%
６月	20	4	22%	12 月	20	4	24%
７月	22	4	22%	１月	19	4	21%
８月	19	4	19%	２月	18	4	19%
９月	19	4	22%	３月	20	4	22%

【稼働率分析】

就労継続支援Ｂ型として工房結で契約を行っている方は４名となっており、週１回の頻度で一般企業就労の勤務日の合間に利用されている方もいるため、稼働率としては 20%前後となっている。

工房結（生活介護）【定員数 10 名　契約者数 6 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	6	52%	10 月	22	5	43%
5 月	21	6	53%	11 月	20	6	49%
6 月	20	6	48%	12 月	20	6	53%
7 月	22	6	48%	1 月	19	6	53%
8 月	19	6	44%	2 月	18	6	52%
9 月	19	5	45%	3 月	20	6	54%

【稼働率分析】

令和 6 年度から生活介護事業を申請し、生活介護として工房結で契約を行っている方は 6 名となっている。定員数にまだ空きがあることから稼働率は 50%前後となっている。

喫茶ゆうほ～【定員数 10 名　契約者数 8 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	8	80%	10 月	23	8	79%
5 月	21	8	78%	11 月	20	8	79%
6 月	21	8	80%	12 月	19	8	75%
7 月	22	8	78%	1 月	19	8	78%
8 月	19	8	76%	2 月	19	8	77%
9 月	20	8	83%	3 月	20	8	76%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っているため、70～80%の通所率になっているが、メンバーは年間を通して安定的に通所されていた。

（4）重点方針及び事業内容　取組結果

【工房　結（就労継続支援 B 型）】

①紙漉き活動の充実と製品の販路拡大から売上の向上を図る。

・紙漉き活動においてはメンバーも少しずつ各自の作業工程が定着してきており上達した様子が伺えた。ただし、紙の厚さを統一するなど漉きの技術にはまだ改良の余地がある。

・毎年製作しているカレンダーは 500 部近く売ることができ、新たにひよりで販売しているメンマのパッケージやクッキーのセットに入れるサンクスカードなどの製作も手掛けた。試作段階ではあるが、紙の素材からカバンの製作なども行うなど、紙漉きを使った製品開発に取り組んだ。

【工房　結（生活介護）】
②メンバーが安心して活動に参加できるように支援する。
・4 月より新たに生活介護としてスタートした。新しい環境にもメンバーは慣れて安定した通所も確保することができた。活動の中にはアートプログラムも取り入れ、それぞれの自由なタッチで絵を書くなど表現の機会を作った。参加したメンバーがみんなで振り返りの時間を持つなどして、絵を書くこと・表現することを楽しみに感じ、少しずつ絵の表現に広がりや変化も見ることができている。

【喫茶ゆうほー】
③メンバーの仕事の充実を図り売上向上につなげる。
・4 月以降市役所のお弁当販売でチラシを配布したり、アントレ広場での出店で販売と広報活動を行い集客に努めることができた。市役所でのお弁当の注文数も増加し、喫茶の来客数も増やすことができた。
・秋ごろに調理職員の体調不良等もあり、喫茶営業日を縮小せざるを得ない時期もあったが、年間の売上としては前年を上回ることができた。
・喫茶業務以外にもマンション清掃やブルーベリーの収穫、高山ファームでの畑仕事などにも参加した。厨房での仕事として精米や買い物、味噌汁づくりや材料の下処理なども行い、広がりを持つことができた。

（5）職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携
【工房　結】
・たわわ食堂に毎月参加し、調理や配膳等の手伝いの役割や授産品販売を通じて地域との関わりを深めることができた。
・フォレスト地域包括センターや壱分小学校放課後こども教室で紙漉き体験を実施した。

【喫茶ゆうほ～】
・故障した 2 階厨房の食洗器の買い替えや炊飯器等老朽化した機材の入れ替えを実施した。
・お弁当に異物混入が発覚した事故を踏まえて、事故検証からマグネットを含めた小物の除去、整理、調理器具の置き方の見直し、衛生管理の研修を実施し、異物混入を起こさないための対策を行った。

【ボランティアとして活動くださった方々】
＜班別／月別延べ人数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別小計
工房　結	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゆうほ～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

４．ひより（生活介護）

（１）総括

昨年度はひよりマルシェの初開催や、カフェの営業日の拡大、加工場では新商品の開発を行うなど、事業が広がることでメンバーの活動の幅も広がった。また、引き続き「奈良のとれたて野菜デリ」「郵便局販売」「竹のワークショップ」などの出店、イベントにより農業・6次産業の取り組みを地域の方々にも感じていただく機会を持つことができた。

（２）職員体制

・管理者　１名
・サービス管理責任者　１名
・支援員　　正規３名　サポート６名

（３）利用者の状況

【ひより】（令和７年３月 31 日現在）

④ 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	0	1	5	1	0	2	0	9	41.4
女	0	3	2	1	0	0	0	6	32.8
計	0	4	7	2	0	2	0	15	38

⑤ 障がいの程度　区分認定

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	1	2	3	3
女	0	0	0	0	0	4	2

合計	0	0	0	1	2	7	5

⑥ 稼働率

ひより【定員数 20 名　契約者数 15 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	14	67%	10 月	22	14	69%
5 月	21	14	65%	11 月	20	14	68%
6 月	20	14	69%	12 月	20	14	69%
7 月	22	14	66%	1 月	19	14	68%
8 月	19	14	64%	2 月	18	14	65%
9 月	19	14	67%	3 月	20	14	66%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っていることや体調不良であまり通所できなかったメンバーがいたため通所率は 60%台であった。

（4）重点方針及び事業内容　取組結果

①農作物の安定した生産と計画的な加工品の製造を行い、売上向上につなげる。

・作物の安定的な生産のため、年間の作付け計画を見直し、ファームの土壌に適した作物の選定や病気の対策を講じた。天候や害虫などの自然現象への対策では課題も見つかっており、引き続き安定して育成を進められるように取り組んでいく。また、メンバーが草とりや水やり等の管理作業に参加する機会を増やすことで、今まで以上に細やかな管理を行うことができた。

・加工品製造については、閑散期に稼働率を上げる工夫を行うとともに、販路を拡大し製造量を大幅に増やすことで売り上げを大きく伸ばすができた。

③ カフェの集客率と売上の向上を図る。

・5 月より週 3 日に営業日を拡大した。最初は、もともと営業していた水曜日以外の曜日は来客も疎らだったが、インスタグラムでの広報活動やお客様の口コミにより、予約を多くいただけるようになった。また、テイクアウトを開始したことや物販面でも力をいれることで売り上げの向上にもつながっている。

（5）職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

・いこま里山クラブさん竹林整備の実施
・森田記念福祉財団が実施するとれたて野菜デリへの参加
・フードバンク奈良への野菜の提供
・生駒市健康づくり推進員連絡協議会との連携

・草刈りの実施

【ボランティアとして活動くださった方々】

＜班別／月別延べ人数＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	班別小計
ひより	3	3	4	3	5	2	3	3	4	3	3	5	41

【休日開所の参加状況】

休日開所【全体 66 名】							
	登録総数	参加人数	参加率		登録総数	参加人数	参加率
4 月				10 月	30 名	29 名	96%
5 月	34 名	31 名	91%	11 月			
6 月	29 名	29 名	100%	12 月	30 名	28 名	93%
7 月	34 名	33 名	97%	1 月	35 名	32 名	91%
8 月	29 名	27 名	93%	2 月	30 名	21 名	70%
9 月	35 名	35 名	100%	3 月	35 名	34 名	97%

・休日開所については、2 月に新型コロナウイルス感染者が増えたことを除くと高い参加率で活動を行うことができている。令和 6 年度は、グループを細分化し小集団で活動を行ったことにより、活動内容に広がりが持てたり、各グループ特色のある取り組みを行うことができた。

Ⅲ.居住部門

Ⅲ　居住部門

暮らしプロジェクト

令和 10 年小瀬地区新規グループホーム開所に向けて、設計会社との打ち合わせを行った。その中でより具体的にイメージをしていくために、ニーズ調査を実施したり、設計などハード面で工夫されている施設や、支援や取り組み等のソフト面で工夫されている施設の見学も行った。
また、人員不足の中でも安心安全に生活をしてもらえるように、現在点在している男性グループホームを 1 か所のグループホームに出来るよう検討や協議を行った。

１．　ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー・たびだちの家　（グループホーム事業）、ラベンダー（短期入所事業）、福祉ホームおかりなの家（福祉ホーム事業、居宅介護事業等の一部）、福祉ホームおかりなの家（短期入所事業）

（１）総括

令和 6 年度はグループホームにて 2 件の虐待案件と入浴時にメンバーが意識を失い溺れる事故が発生した。虐待案件の内、1 件は生駒市による事実確認調査の結果、身体的虐待及び心理的虐待があったと確認されることとなり、当該メンバーとご家族には多大なご不安とご心配をおかけすることとなった。今後、このような事が起きないように改めてメンバーの特性を再確認して支援手法や関わり方の見直しを図るとともに、職員の負担軽減や事実確認を行いやすいよう共有スペースへのカメラの導入なども進めていくことを話し合った。

入浴時の事故に対しては、意識を失った原因を究明しつつ、可能性のある原因への対策や発作がない方や一人で入浴される方の見守り方の見直しなど再発防止に努めている。

その他、4 年ぶりに日帰り旅行の再開や長期休暇中のイベントなど余暇の機会を多く開催することができた。

（２）職員体制

・管理者　　1 名（兼務）
・ホームリーダー2 名（男性担当 1 名、女性担当 1 名）（兼務）
・支援員　正規　10 名（兼務）、嘱託 3 名、サポート 6 名
・特定技能生 8 名（兼務）
・アルバイト約 25 名（うち泊スタッフ 20 名）

（３）利用者の状況

①年齢構成

【グループホーム】

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	70 歳以上	平均年齢
男	0	0	5	2	4	0	0	44.2
女	0	0	4	8	4	0	0	45.2
計	0	0	9	10	8	0	0	44.7

【福祉ホーム】

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	平均年齢
男	0	0	3	3	2	3	1	52.6
女	0	1	2	3	0	0	0	37.7
計	0	1	5	6	2	3	1	45.2

②障がいの程度　区分認定

【グループホーム】

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	0	0	2	9
女	0	0	1	0	2	5	8
合計	0	0	1	0	2	7	17

【福祉ホーム】

	区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
男	0	0	0	0	2	2	8
女	0	0	0	0	2	1	3
合計	0	0	0	0	4	3	11

（４）重点方針及び事業内容　取り組み結果

①小瀬プロジェクト

・5 年先 10 年先の生活支援のニーズを把握していくため、在宅で生活されているメンバーを対象にアンケート調査を実施し、今後の生活支援のニーズについて確認することができた。

・設計会社との打ち合わせを行った。その中でより具体的にイメージをしていくためにニーズ調査に加えて、設計などのハード面で工夫されている施設や、支

援や取り組み等のソフト面で工夫されている施設の見学も行った。

②重度化・高齢化に伴う支援の質の向上

・服薬関係の事故が多く発生している課題があり、メンバーの健康維持、安全を確実に担保していくために、ホーム全体としての見直しを行い、ホーム毎に複雑化している部分に統一性を持つことができるよう検討した。服用時にダブルチェックができない一人体制の時には、管理職に写真を送信して確認するように改善した。また、服薬セットのミスを無くすため、薬局に服薬セットまでお願いする試みも始めることができた。

③人材獲得・人材育成

・補助金の申請が受理され、女性ホームではネットワーク環境の整備と新たに眠りSCANの導入を令和7年1月に実施することが出来た。また、ホームのリビングや廊下などの共有スペースにご家族の同意を得たホームについては、室内カメラを設置し、支援の透明化を図るように整備した。

・例年行っている大学へのアルバイトの紹介にも行ったが、応募に繋がらなかった。現在勤めているアルバイトからの紹介で新たに数名のアルバイトを採用することができたが、4回生の学生が卒業で退職したため、不足した状態が続くこととなった。

【ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー・たびだちの家（共同生活援助）】

	開所数	一歩の家		たびだちの家		ポピー		クローバー		ラベンダー		合計	
		7名		5名		6名		6名		4名		28名	
4月	30	180	86%	84	56%	170	94%	169	94%	92	77%	695	83%
5月	31	177	82%	88	57%	167	90%	175	94%	91	73%	698	80%
6月	30	176	84%	80	53%	165	92%	171	95%	92	77%	684	81%
7月	31	187	86%	88	57%	173	93%	173	93%	96	77%	717	83%
8月	31	178	82%	76	49%	163	88%	175	94%	88	71%	680	78%

9月	30	175	83%	76	51%	164	91%	169	94%	84	70%	668	80%
10月	31	185	85%	88	57%	171	92%	177	95%	95	77%	716	82%
11月	30	180	86%	87	58%	158	88%	164	91%	88	73%	677	81%
12月	31	172	79%	88	57%	172	92%	166	89%	92	74%	690	79%
1月	31	167	77%	82	53%	156	84%	170	91%	69	56%	644	74%
2月	28	151	77%	79	56%	153	91%	158	94%	82	73%	623	79%
3月	31	176	81%	85	55%	171	92%	176	95%	94	76%	702	81%
合計・平均		2104	82%	1001	55%	1983	91%	2043	93%	1063	73%	8194	80%

【福祉ホーム】

稼働率（%）

	開所数	やまぼうし		あおぞら		わかくさ		ひまわり		合計	
		4名		6名		4名		6名		20名	
4月	30	117	98%	180	100%	57	48%	132	73%	486	81%
5月	31	118	95%	185	100%	60	48%	128	69%	491	79%
6月	30	117	98%	180	100%	59	49%	131	73%	487	81%
7月	31	118	95%	186	100%	60	48%	148	80%	512	83%
8月	31	117	94%	186	100%	60	49%	161	87%	524	85%
9月	30	114	95%	180	100%	59	50%	163	91%	516	86%
10月	31	122	98%	186	100%	62	50%	167	90%	537	87%
11月	30	120	100%	180	100%	60	48%	166	92%	526	88%
12月	31	118	95%	186	100%	60	48%	165	89%	529	85%
1月	31	117	94%	182	98%	60	48%	154	83%	513	83%
2月	28	103	92%	168	100%	48	43%	144	86%	463	83%
3月	31	122	98%	186	100%	61	49%	171	92%	540	87%
合計・平均		1403	96%	2185	99%	706	48%	1830	84%	6124	84%

【ラベンダー、福祉ホームおかりなの家（短期入所）】

稼働率（%）　　※福祉ホーム男性２床　女性２床　　※ラベンダー1 床

稼働率（%）

	開所数	男性			女性			ラベンダー			合計		
		２床			２床			１床			５床		
		人	日	率	人	日	率	人	日	率	人	日	率
４月	30	9	74	123%	0	0	0%	0	0	0%	9	74	49%
５月	31	11	88	142%	0	0	0%	0	0	0%	11	88	57%
６月	30	11	70	117%	1	2	3%	0	0	0%	12	72	48%
７月	31	10	61	98%	2	4	6%	0	0	0%	12	65	42%
８月	31	9	74	119%	1	2	3%	0	0	0%	10	76	49%
９月	30	13	78	130%	0	0	0%	0	0	0%	13	78	52%
10 月	31	11	62	100%	4	11	18%	0	0	0%	15	73	47%
11 月	30	10	55	92%	4	38	63%	0	0	0%	14	93	62%
12 月	31	8	59	95%	4	21	39%	0	0	0%	12	80	52%
１月	31	11	59	95%	3	9	15%	0	0	0%	14	68	44%
２月	28	10	54	104%	3	9	16%	0	0	0%	13	63	45%
３月	31	12	67	108%	4	12	19%	0	0	0%	16	79	51%
合計・平均		125	801	110%	26	108	15%	0	0	0%	151	909	50%

（５）勤務形態・業務内容の見直し

・業務形態の多様化の整理を目的とした業務内容の見直しは、業務形態を変更するまでには至らなかった。ただ、眠り SCAN や見守りカメラを導入したことで、間接的にメンバーの状況を把握したり、離れた場所からも状況確認ができるようになった。今後も介護負担を軽減する機器の導入も並行して検討しながら、業務形態の見直しを図っていく。

（６）短期入所

・短期入所を希望される方が増えており、一ヶ月以上の長期利用をされるケースもあった。男性は継続して稼働率が 100%を超える月があるなど、利用頻度が高い。更に緊急時の受入れを見越して、慣れていくための体験利用を目的に、継続して利用したいという希望も増えている。女性も年度の後半に向けて利用が増えた。ラベンダーの短期入所は、常時の見守りを必要としないグループホームの併設型としての利用となるが、そのようなニーズに応じた利用がなかった。

Ⅳ.地域生活部門

Ⅳ　地域生活部門

《総括》

居宅介護事業では、高齢化が進む中、ご家族のレスパイトや入院・急な通院等により行動援護等での短時間でのサービスのニーズや緊急対応が必要なケースが引き続き多く見られた。緊急対応等については法人全体で受け入れ体制の調整を行ったが、定期的なニーズに関しては人員不足もあり、全てのニーズにお応えすることが出来ない状況もあった。

相談支援において、相談実績の件数は昨年と比べて増加傾向にあり、特に令和6年度は『権利擁護』『健康・医療』『家族関係・人間関係』『保育・教育』の項目に関する相談が多かった。成年後見制度の利用や医療への受診同行、経済的なサポートや自宅の片づけを含めた家族全体の支援等、多岐にわたるニーズに、できるだけ迅速に対応するよう心がけた。また、10～20代の若年層メンバーでは人間関係や職場の悩みで定期的に面談を希望するケースが多く、各相談員が多くの時間を割いて対応している現状があった。ご本人だけでなく、家族全体のケアが必要なケースも目立ち、地域包括支援センターや病院の MSW 等との連携も大幅に増えている。

１．デイケアセンターかざぐるま（居宅介護事業等）

（１）総括

令和 6 年度の利用状況を見ると、高齢化等により通院介助の利用が前年度よりも増加している。また、行動援護等での日中活動後の 2、3 時間程度の支援のニーズも増えている状況であり、多種多様なサービス利用のニーズは年々増加している。

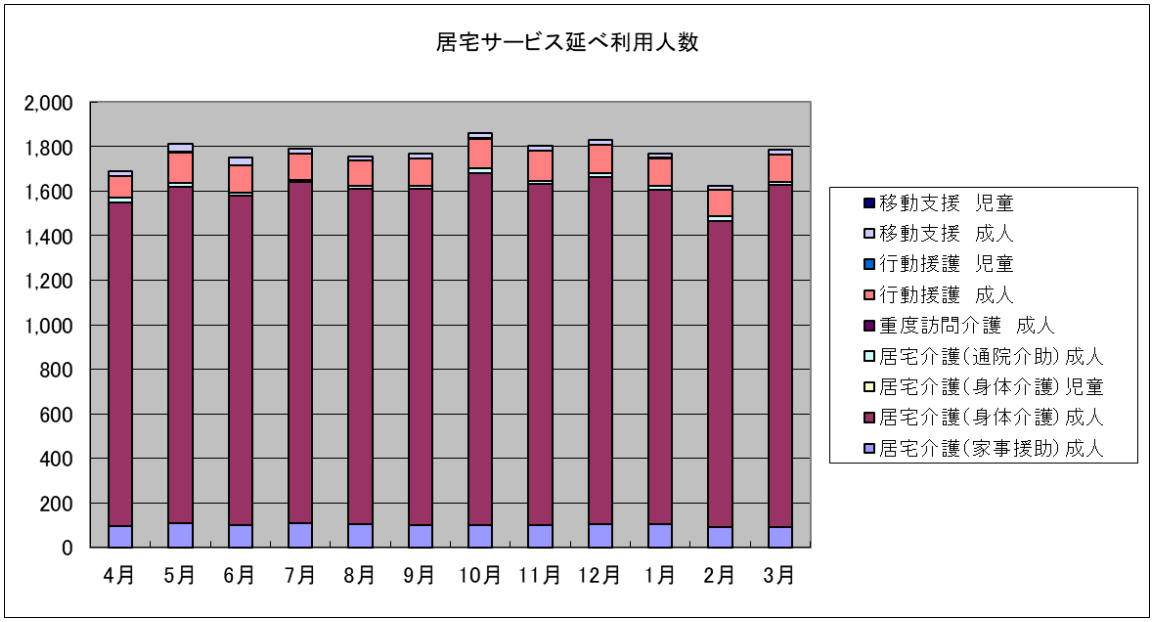
（２）職員体制

・管理者　1 名
・サービス提供責任者　正規 3 名
・支援員　正規 7 名（兼務）、嘱託 2 名（兼務）
・サポート(登録ヘルパー)　約 15 名

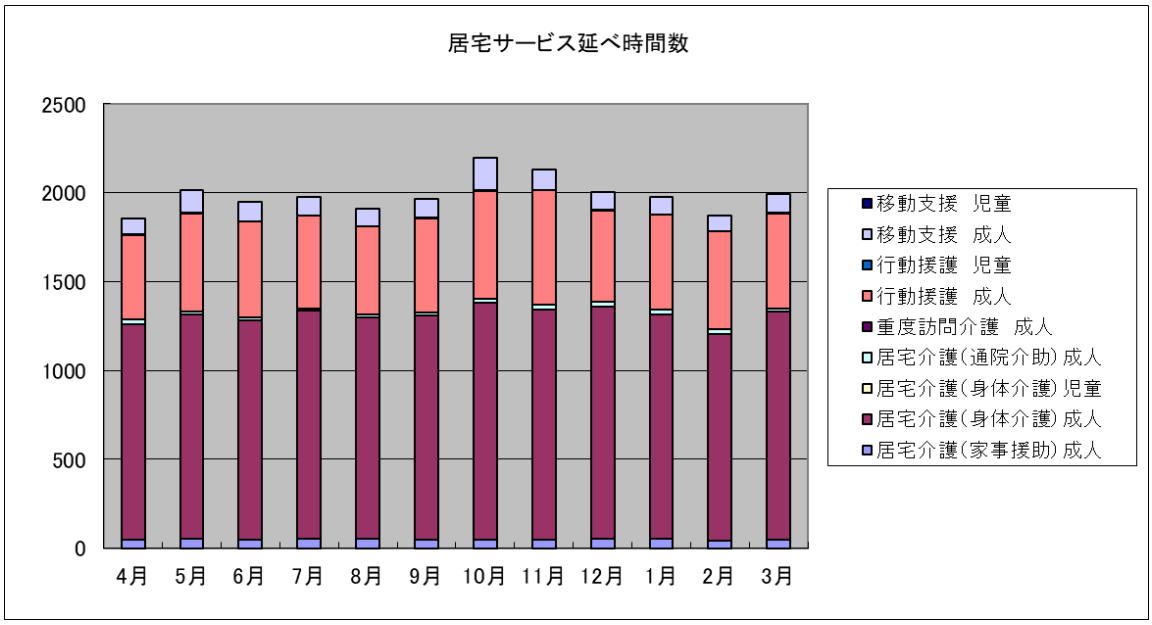
（３）利用者の状況

令和6年度居宅サービス延べ利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護（家事援助）成人	95	109	101	109	102	99	99	99	102	102	89	92	1,198	93%
居宅介護（身体介護）成人	1,456	1,512	1,477	1,533	1,510	1,513	1,584	1,533	1,560	1,504	1,379	1,535	18,096	96%
居宅介護（身体介護）児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
居宅介護（通院介助）成人	19	15	14	9	14	13	18	16	20	18	19	15	190	131%
重度訪問介護　成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
行動援護成人	97	139	125	116	111	120	136	134	125	125	118	123	1,469	102%
行動援護児童	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	10	100%
移動支援成人	20	36	32	24	20	21	24	23	21	21	19	21	282	75%
移動支援児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	1,688	1,812	1,750	1,792	1,757	1,767	1,862	1,805	1,829	1,771	1,625	1,787	21,245	96%



令和6年度居宅サービス延べ時間数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護（家事援助）成人	47.5	54.5	50.5	54.5	51	49.5	49.5	49.5	51	51	44.5	46	599	93%
居宅介護（身体介護）成人	1212.5	1261.5	1232.5	1284.5	1247.5	1262.5	1333.5	1296	1309	1263	1160.5	1286.5	15150	95%
居宅介護（身体介護）児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
居宅介護（通院介助）成人	25	16	16.5	11	17	13	20	24.5	29.5	26.5	25.5	18	242.5	125%
重度訪問介護　成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
行動援護成人	478.5	552.5	537	519.5	495	531	607.5	646.5	511.5	535.5	552	534	6501	108%
行動援護児童	2	2	2	2	0	2	2	0	2	2	2	2	20	91%
移動支援成人	90.5	130.5	112	105	97	109	182.5	111.5	100.5	101	84.5	104.5	1329	108%
移動支援児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	1856.0	2017.0	1950.5	1976.5	1907.5	1967.0	2195.0	2128.0	2003.5	1979.0	1869.0	1991.0	23840.0	99%



（４）重点方針及び事業内容　取組結果

①緊急対応を含めて短時間から長時間にわたり、多種多様なニーズがある中で、サービス提供をスムーズに行うことが出来るよう人材獲得を目指す。

・かざぐるまの会場を使用して介護職員初任者養成研修を開講し、資格を取得からサービス提供を担うことが出来る人材を増やすことが出来たが、十分な人材確保には至っていない。そのため、法人全体で必要とされるサービスの提供を行うことが出来るよう体制の整備に努めた。

（５）地域との交流・連携

・学生ボランティアや有償ボランティア等を活用した企画計画までに至らなかった。

２．生活支援センターかざぐるま（相談支援事業）

（１）総括

年間を通して、相談件数は軒並み増加傾向にあり、福祉サービスの利用や障害特性に関することだけでなく、家族との関係や就労支援、学校や医療との連携等、様々な生活課題の解消に向けて、地域の各関係機関と協力しながらケースワークを行うことができた。特に、成年後見制度の利用が必要なケースや、家族の高齢化により GH 入居や短期入所の利用をスタートするケース、家族全体を包括的にケアする必要があるケースが目立っていた。どの分野においても多職種が連携しながら役割分担をしていく必要があるため、状況に合わせた各関係機関との連携強化を進めてきた。

相談件数は、基幹相談 702 件、委託相談支援実績 10,930 件、計画相談実績 2,426 件、計 14,058 件と、前年の 13,165 件から 893 件増加している。新規ケースは、あすなろからの移行ケースを含め、19 件となっている。

（２）職員体制

・センター長　　１名（相談支援専門員兼務）
・相談支援専門員　　正規 5 名（うち 2 名居宅兼務）
・相談員　　正規１名　　サポート１名
・事務員　　正規１名（居宅事務兼務）サポート１名

（３）利用者の状況

※別紙参照　「令和 6 年度生活支援センターかざぐるま概況報告」

（4）重点方針及び事業内容　取組結果

①地域の基幹的な役割を担う相談支援体制の構築

・令和 6 年度も相談実績は昨年度を上回っており、個々によって異なる生活課題の解消に向けて、地域の各関係機関と協力しながらケースワークを行うことができた。ご本人の意思を尊重したい気持ちが強くても、なかなかご本人と直接会えないケースや障害特性や調子によって想いがその都度変わるケースも多く、意思決定支援の奥深さを痛感している。

・虐待に関するケース相談が事業所から入ることもあり、生駒市障がい福祉課と連携しながら、具体的な対応の流れや事業所内の振り返り等について、具体的にアドバイスを行っている。

・困難事例について、委託の 4 支援センターを含め、市内の計画相談を担う事業所が集まる協議会にて、事例検討の勉強会を実施した。他事業所の相談員同士が互いに意見交換をしながらスキルアップを目指す機会となった。また、10 月には自立支援協議会担当者会の勉強会として外部講師を招き、福祉の原点やソーシャルワークの基本的な視点について学ぶことができた。

②多岐に渡る障害特性に対応した柔軟な包括的支援の実施

・相談内容として、特に『権利擁護』『健康・医療』『家族関係・人間関係』『保育・教育』に関する相談が多く、生活背景や経済状況等、ご本人を取り巻く環境が困りごとにつながっているケースが増えている。表面化しているニーズの奥に、本当に解決すべき課題が潜んでいることも多いため、関係機関と連携しながら進める必要があった。実際の動きとしても、通院同行や手続き代行、自宅の片づけ、引っ越し、大掃除等、多岐にわたるニーズにできる限り対応した。

・10～20 代の若年層のケースでは、人間関係や職場の悩みで定期的に面談を希望するケースが多く、各相談員が多くの時間を割きながら少しずつ関係性を築けるよう工夫した。コミュニケーションのルールや他者と関わる際のモラル等、必要なスキルを少しでも身に着けられるよう個々に合ったアドバイスや関わりを意識している。

・昨年度から継続している「SST プログラム」について、上半期は 7 月に実施した「アンダー30 歳 BBQ イベント」の打ち合わせを兼ねて、自分たちで BBQ イベントのメニューやルール決め、役割分担等を話し合いながら決めていく機会を作った。BBQ 参加者 15 名のうち、事前準備の実行委員会には 5 名の参加があり、和気あいあいと話し合いながらお互いの特性を気遣ったり、互いの意見が衝突した時の対処法等について、学ぶことができた。イベント当日も、彼らが中心となり、仕切る姿が見られ、生の勉強の機会となった。

③社会生活力を高めるプログラムの立案と実施

・上半期に、BBQ イベントを 2 回実施した。7 月は初の試みである、「アンダー30 歳限定 BBQ」、10 月は通常の「BBQ イベント」で、7 月/10 月ともに 15 名ほどの参加があった。

・12 月上旬に、初の試みである「ランチ会」を企画。好評だったアンダー30 歳限定で、忘年会のようなイメージで気軽に参加できるよう工夫し、当日は 9 名の参加があった。「同年代の友達がほしい！」と話すメンバーも多く、そのきっかけ作りの場となった。

（５）地域との交流、連携

・重層的支援体制整備事業との連携を含め、各関係機関や専門家との情報共有やコミュニケーションについて、概ね円滑に行うことができた。特に、高齢分野との連携の機会が増え、日常的にやり取りする場面も以前よりも多かった。

・新しい事業所やインフォーマルな居場所支援とも積極的につながる意識をもって日々行動しているが、新たな社会資源の開拓までは至っていない。

３．地域生活支援拠点等事業ラベンダー（地域生活支援拠点等事業）

（１）総括

利用実績としては前年度から大幅に増加するといったことやひとり暮らし体験を通して一人暮らしや、グループホームの入居につながったという事例はなかった。地域生活支援拠点事業はどういった事業であるのかという周知が足りていない状況となっている。

（２）職員体制

・拠点担当職員　2 名（うち 2 名居宅、グループホーム兼務）

（３）重点方針及び事業内容　取り組み結果

①相談機能

・相談機能の内容について地域全体に周知することは出来なかったが、緊急で相談がある場合は各事業所や相談支援事業所に連絡があり対応することが多かった。

② 緊急時の受入れ

・緊急時対応はなかった。また、緊急時の体制整備として市外の事業所を含めた事業所登録数を増やすことは出来なかった。

③ ひとり暮らし体験

・新規で利用をされた方が２名。前年度から継続して利用された方が１名いた。
・精神障害の方々の一人暮らし体験事業も開始することとなり、一人暮らし体験を行っている各事業所の利用状況やニーズ・利用後の状況について共有する機会をもった。

【利用実績】
１．緊急受け入れ事業　０件
２．一人暮らし体験事業　３件
　内訳　基礎体験コース（宿直者加配）　２件
　　チャレンジコース　１件
３．相談機能　登録者５名
４．コーディネーター事業　262 件

事業項目	件数
緊急時受け入れコーディネート	1
緊急時受け入れ対応	0
一人暮らしの体験に関する相談	14
地域生活支援拠点事業の整備・運営に関すること	3
その他地域生活支援拠点事業に関する相談	1
相談機能に関すること	243
計	262

（４）地域との交流、連携、啓発
・緊急的な受け入れを行っている県外の事業所の取り組みを聞く機会をもったり、自立支援協議会くらし部会主催で開催したグループホームの研修会に参加することで、暮らしについて他事業所の職員とも課題の共有をすることができた。